

## 少年メッセージ2023 岩出市審査会 入賞

### 言葉について考えてみた！

岩出中学校 3年 浦邊 茉由

「それな」「やばっ」「とりま」「しんだ」  
今じゃこの四単語だけでも一日に百回以上使っています。意味としては、

「それな」…相手に深く共感する時に用いられます。また、興味のない話に適当に合わせておきたい時や特に返しの思いつかない時などにも使われます。

「やば」…この言葉は沢山のニュアンスで使われることが多いです。例えば、カッコイイ人が通った時や失敗した時、美味しいものを食べた時、結構危険な状況に陥った時など色々な場面で使われます。

「とりま」…この言葉は「とりあえず」を略した言葉で話をまとめた時に使います。

「しんだ」…この言葉は面白すぎて笑い死にそうな時や人生終わったと思う瞬間などに使われ、幅広く使われます。

この四単語があれば大概の会話は滞りなく続きますが、自分や相手の感想は知ることはできません。また、年配の方や母親・父親世代の方にも誤解を招いてしまい、不快な気持ちにさせてしまうことがあります。私も実際に言葉遣いが悪いと怒られたという経験があります。こういった言葉の乱れが誰かの気分を害してしまい、自分も相手も傷つけてしまうことがあります。同世代の人と話している時はそれで良くて、自分より目上の人からすると聞き慣れない上に不快感を与えてしまう言葉でもあるので、人や場所に応じて言葉を使い分けないとはいけません。

綺麗な言葉とはなんだろうと考えた時に「大和言葉」という日本古来の言葉があると知りました。「大和言葉」とは日本で生まれた日本固有の言葉のことで、和語とも呼ばれます。例えば「おめでとう」とは、「めでた」すなわち「芽が出た」状態を表すという説があります。芽が出るのはそれだけに成長したということで人生のステップを一つ登った、あるいは新年を迎えて一つ年を重ねた、などの状態を示す言葉が、変わってお祝いの言葉になったと考えられています。こうした普段何気なく使っている言葉でも全く

知らなかった意味が込められていてびっくりしたし、現代にも使われていてすごいなと思いました。しかも、「大和言葉」を調べていくうちにものすごく綺麗な意味の言葉が二つあったので特にお気に入りをご紹介します。一つ目は、「恋衣（こいごろも）」です。意味は、心から離れない恋を身につける衣に例えた語です。「恋衣」という言葉は、「万葉集」や与謝野晶子他二名の合作の和歌集のタイトルにもこの言葉が使われています。二つ目は、「花明かり」という大和言葉です。桜が満開になって、その鮮やかさが、辺りの闇をほのかに明るく照らすという意味が込められています。

このような美しい言葉を残していくのも私達の役目ではないのかなと今回、調べてみて考えるようになりました。たまに友達との会話などでこのような美しい意味をもつ言葉を交えながら話すと、藤井聡太竜王のようにかしこそう且つ上品に見えるので使っていこうと思います。そのためには、エッセイ本や小説、特に美しい言葉が沢山書かれている詩集や短歌などさまざまなジャンルの本を読み、語彙力を伸ばしていきたいなと思います。「それな」や「やばっ」・「とりま」・「しんだ」というあまり自分の感情を表せられない言葉からは卒業して、かっこよく日本語を使いこなせるような女性になりたいと思います。